

矢作川流域圏懇談会通信

R7 山部会編 vol.3



発行日：令和7年11月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第17回山部会まとめの会を開催しました！

岐阜県恵那市にて開催した第17回まとめの会は、テーマ別の活動進捗状況の報告と第15期の振り返りおよび第16期の活動目標について議論しました。また、森林整備と流域材利用のあり方や、翌日のFWで案内していただくリコーエナの森の活動を紹介していただきました。

日時：令和7年10月3日（金） 13:30~17:00

場所：恵那文化センター

参加者：32名 ※事務局を含む



◆主な会議内容

1. テーマ別の活動進捗状況の報告



テーマ別の活動進捗状況について、担当者より報告し、意見交換を行いました。

■流域圏担い手づくり事例集（豊田市矢作川研究所 洲崎 主任研究員）

- ・ これまでの流域圏担い手づくり事例集の活動と来期に発行予定の「流域圏担い手づくり事例集VI-II」の概要について説明しました。
- ・ 「流域圏担い手づくり事例集VI-II」では、取材先リストについてや、遠州灘流域圏を含んでいることを報告しました。山部会に限らず他部会や他団体も巻き込んで、取材担当者を決定していくことを報告しました。
- ・ 事例集交流会は「流域圏担い手づくり事例集VI-I」と「流域圏担い手づくり事例集VI-II」をまとめて、来期に開催することを報告しました。

■山村ミーティング（山部会 丹羽 副座長）

- ・ 出発点「矢作川の恵みで生きる」を用いて山村ミーティングの今後の方針について意見交換しました。
- ・ 「森林整備と流域材利用のあり方について（提案）」を基に、今後の活動を決定していくことを報告しました。

■森づくりガイドライン（山部会 蔵治 座長）

- ・ 森づくりガイドライン関連の今後の予定を報告しました。また、全体会議の同日の午前中に開催される「未来へつむぐ命の水と森の座談会」について情報共有されました。
- ・ 長期計画である森づくりビジョンの進捗管理を行っている岡崎市森づくり協議会の内容を説明しました。

■木づかいガイドライン（森と子ども未来会議 鈴木代表）

- ・ 来期の活動目標として、矢作川流域圏懇談会が中心となり、流域産材を活用するためのプラットフォームを作ること報告しました。
- ・ あいちの木材利用施設事例集に記載されている、あいち木づかい表彰受賞施設等の愛知県材の木材を利用した好事例について情報共有しました。

2. 第15期の振り返りと第16期の活動



- ・ 第15期の振り返りと第16期の活動目標について話し合いました。
- ・ 4つのテーマの今期の活動実績を報告しました。「流域圏担い手づくり事例集」、「森づくりガイドライン」、「木づかいガイドライン」は、来期の活動目標において、今期から継続している事項や、来期から新たに取り組む事項について報告しました。また、「山村ミーティング」の来期の活動目標については、本まとめの会の結果を踏まえて、修正していくことを報告しました。

3. 森林整備と流域材利用のあり方について（提案）



- ・ 木づかいガイドラインと山村ミーティングの合同テーマとして、森林整備と流域材利用の両立する方法を検討することを報告しました。
- ・ 流域材利用の成果と課題についてまとめ、情報共有することや、自治体や建築家などの関係者に思いを語ってもらい、意見交換する会を設けることを提案しました。

4. リコーエナの森の話題提供



- ・ リコーエナの森の成り立ちや森林の特徴について説明していただきました。
- ・ 2014年より協議会体制となり、リコーエナの森中山道里山協議会を結成し、多くの人々、団体が関連していることを説明していただきました。
- ・ 「創る・学ぶ・遊ぶ多様な森」をテーマに様々な森づくり活動や学びの場として活用されていることを説明していただきました。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

1. テーマ別の活動進捗状況の報告

(1) 流域圏担い手づくり事例集

- ・流域圏担い手づくり事例集Ⅵ-Ⅱの冒頭で、流域圏大学の概要や必要性について蔵治氏と萱場氏の対談を掲載するのはどうか。(近藤)
 - ▶蔵治氏と萱場氏の対談を踏まえ、流域圏大学について、今後の展望等の寄稿文を近藤氏が作成する。(洲崎)
- ・川に関連する取材先は山を専門とする人が取材するなど、専門分野が異なる方に取材してもらい、様々な立場、観点から情報を整理していきたい。(洲崎)

2. 第15期の振り返りと第16期の活動目標

- ・地域の木材の利用方針について、地域住民も考える機会が増えるような目標を設定すると良いのではないか。(山本)
- ・今後、木材の利用や森を活かす取り組みを担う若い世代の参加者が少ない。そういった若い世代や山に興味がない人々へのアプローチが重要と考えるが、懇談会ではどのようなアプローチをしているか。(吉水)
 - ▶地域の未来支援センターと22世紀奈佐の浜プロジェクトが共同で、学生を巻き込んだ取り組みを実施し、森や海について学ぶ機会を設けている。(近藤)
 - ▶上記のような活動をしたおかげか、ここ2年くらいで矢作川流域圏懇談会に興味を持ち、参加して下さる方も増えてきた。(三ツ松)
 - ▶WGで議論するだけでなく、各自がWGで得た情報を発信していくことが重要である。(近藤)

3. 森林整備と流域材利用のあり方について(提案)

- ・流域材の利用は、川下に住む都市住民に森林の公益的機能や水源域のコミュニティ存続の重要性について関心や知識を高めてもらい、川上と川下の住民の交流、流域内フェアトレードを進めるきっかけとなる。(洲崎)
- ・テーマごとだけではなく、森林全体の問題として捉え、農山村に様々な人を巻き込み、新しい形の地域に根付いた生産活動や第1次産業を創出していく必要がある。(山本)
- ・流域等の広い範囲を対象とすると、活動の効果が見えにくい部分があると思う。そのため、若い世代や子育て世代を対象を絞り活動すると、効果が見えやすいと思う。(吉水)
- ・人々が行きたいと思えるような楽しい山村を目指すことが重要と考える。根羽村のハッピーマウンテン等の成功事例を基にそれぞれができることから具体化していくと良いと思う。(吉水)
- ・林業に携わる人々の多くが効率的な木の切り方について考えており、伐採後の森づくりに関心のある人が減少している。持続的な木材生産や公益機能を高めるための森づくりをしていくためにも森づくりの手法等を議論していく必要である。(高橋啓)

4. リコーエナの森の話題提供

- ・リコーエナの森で子供達と遊ぶイベントを開催した。イベントの内容は企画せず子供発信で考えてもらい、自由な遊びをしていた。(高橋寿成)



今後の予定

次回の山部会 WG・FW は、令和8年2月6日(金)～7日(土) 岡崎市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会 事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。

